

東北民放クラブだより

ゴルフ同好会あれこれ

伊藤 征雄 (TBC)

この秋、49回目のコンペを開催しました。ゴルフ同好会は東北民放クラブを設立した時に「ゴルフでもしようか」と始められたと聞いています。

東北民放クラブは昨平成27年、25周年を迎えました。ゴルフ同好会も発足から春と秋の年2回コンペを開催してきました。第1回は記録によれば、参加は9人。(今回・秋開催は17人でした)



ゴルフ同好会の皆さん

東北民放クラブの設立が25周年なのに年2回開催のゴルフ会は49回。1回足りないぞ、ともう一度

記録を調べた所、原因が判明。記憶はこんなに当てにならないものか。そう、あの忌まわしい東日本

大震災の春は、ゴルフどころではなかったし、ゴルフ場も殆んどが被害を受け中止にしたのでした。歴史の中で、東北民放クラブの

同好会の一つに「旅行会」があり、東北各県が交代で幹事を務めて、一泊旅行を行っていました。ゴルフ同好会もこの旅行に合わせ、翌日に旅行開催県で行ってきました。

この旅行会も、各県が3巡したところで終了したので、ゴルフも各県開催を取り止め会員が最も多い宮城県内の開催が多くなりました。が、会員の中から「宮城県以外でも」との声が出て2年に1度程度宮城県を離れ、青森、秋田で交流をしています。

近年の会員の高齢化と会員減は同好会活動にも大きな課題ですがこの秋のコンペに60代が5人も参加してくれたので一寸明るさを取り戻しています。

しかも今年は宮城県以外での開催の声も出ており、幹事として「やる気」が出ています。

歩こう会・裏磐梯めぐり

八巻 健 (TBC)

明治二十一年に発生した磐梯山の水蒸気爆発は北側一帯に大小三百余と言われる湖沼群をつくり、荒々しい爆裂壁を遺した。

いま、この地・裏磐梯を訪れる人は年間三百万人を超え、四季を通して賑わっているという。



出発前に記念写真

宮城と福島との交流を兼ねて、歩こう会の21名が訪れたのは10月20日。時折、湖面を渡る風が鮮やかな紅葉を揺らす行楽日和だった。観光客をかき分けて集合写真は撮り、裏磐梯五色沼ウォークは出発した。

季節や時間、天候によって水の色が変わる五色沼には全長4キロ余りの遊歩道がある。沼によって

はコバルトブルーからエメラドグリーンまで色が異なるから足はいつの間にか動きを止めている。

福島グループがバスを後にしたのは福島駅西口。車中で頬張った差し入れの味や歓談。そして来春の福島県花見山での再会に思いをはせ、双方ともいつまでも手を振っていた姿が印象的であった。

「社活」今昔

浅野 榮 (TBC)

日本民放クラブの呼びかけに応じて、当クラブの社会活動部会は平成11年4月に発足した。すでに同年3月から話し方教室に講師3名を派遣、今年も複数の教室から依頼を受け、なかには14年間継続しているものもある。

11月には「あしながPウォーク10」が例年開催され、平成12年から参加。今年は主催者側の人手不足で岩手、福島が中止となった。部会発足時から活動している視覚障害者向け録音図書作成用機器の保守作業は、経験のある会員も高齢化し、デジタル化と相まって任務を終えることになる。

会員の平均年齢が上がり、「老老介護」ならぬ老々奉仕である。